



(2006年8月)

【本学会活動状況】

1. 大会開催報告

平成18年度日本植物病理学会大会は6月3日から5日にかけて、札幌コンベンションセンターで開催された。期間中はライラックの花咲く中、天候に恵まれた。日程が日本菌学会大会と重なり、また土壤微生物学会大会を5日後に控えたことから、当初、参加者ならびに講演申し込み数の減少を心配した。最終的には、一般、学生、招待者を含めて総勢960名（学生262名）の参加があり、470題の講演が行われ盛会となった。海外からの直接参加者も多く、特に韓国からは植物病理学会会長ほか34名（学生15名）の参加があったことが特筆される。さらに世界各国からの国内留学生多数の参加があり、国際色豊かなものとなった。また英語による講演発表数も目立った。総会では、学会長の司会の下、全ての議事次第が滞りなく終了した。その中で特筆すべき点として、学生発表優秀賞の発足が承認され、直ちに一般講演で実施の運びとなった。各会場ともやや緊張した雰囲気の中にも活発な質疑がなされたようである。

懇親会は総会と同じ会場で18時30分から約2時間にわたり催された。参加者数は招待者を含めて460名であった。名誉会員の岸 國平先生の乾杯の音頭で開宴し、活発な懇談が行われた。時間を惜しむ中、名誉会員の四方英四郎先生の中締めのと盛会裡に終宴となった。

今回、参加申し込み方法として、大会開催案内ホームページからのオンライン登録（業者代行）を採用して頂いた。学会初めての試みであり、戸惑いを感じた方も多く、事前登録者数が少ないのではと心配した。しかし、事前〆切時間間にオンライン登録が殺到し、最終的には事前登録者数が772名に達した。海外からの参加者にとって利便性のある登録方法と思われる。

プログラム編成では、演題数470を従来と同様に5会場に納めることができた。また学生発表優秀賞の発足を想定し、関連演題を大会3日目の午前中まで組み入れた。過去の演題数の推移からみると、500題突破は遠い先ではなさ

そうである。今後、開催地では増加する演題数と学生発表優秀賞を念頭においたプログラム編成に苦心されることと思われる。

講演発表形式は、演題数が多い中でスムーズな進行を思うばかりに、OHP形式から脱却できず、ご不便をおかけしたのではないかと努力不足を反省している。学生発表優秀賞の発足に伴い、液晶プロジェクターによる発表の重要度は一層増すものと思われる。

終わりに、大過なく成功裡に大会を終えることができたのも、学会長、学会幹事、座長、開催地の大会運営委員、会場担当係り、アルバイトの学生諸氏のご協力があったることと、厚くお礼申し上げる。次回大会の成功を祈念する。

(内藤繁男)

2. 研究会開催報告

(1) EBC 研究会ワークショップ

EBC 研究会ワークショップ2006が、6月2日午後1～5時、北海道大学農学部総合研究棟多目的室で開催され、病害防除に強い関心を抱く63名の参加者を得て、4題の講演と討論が行われた。

はじめに、「研究データの取り扱いとメタ・アナリシスデータの新しい評価法」と題し、田代暢哉氏（佐賀県果樹試験場）による講演が行われた。EBCとはEvidence-based Controlの略称で、科学的根拠に基づく防除を意味する。薬剤防除におけるエビデンスには残効性や耐雨性といった薬剤の情報等が挙げられ、これらエビデンスとなる各々のデータを解析・評価する方法として、あるテーマに関しこれまで行われてきた研究結果を集積し、定量的・統計学的にまとめて全体としての結論を導き出す研究手法であるメタ・アナリシス（メタ分析）導入の必要性が説かれ、その具体的手順が紹介された。

次に農薬メーカーの立場から、「シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤の効果的使用のためのエビデンス」と題し、横田 因氏（日本曹達株式会社農業化学品開発グ

ループ)による講演が行われた。本剤の特性を、殺菌スペクトラム・既存剤低感受性菌や耐性菌に対する活性・作用機構・予防効果・予防効果の持続期間・治療効果等にわたって整理し、さらにエビデンスをもとにした具体的かつ効果的な使用方法が紹介された。

休憩後、「殺菌剤および電解水等による種もみ消毒法の評価」と題し、向島博行氏(富山県農業技術センター農業試験場)による講演が行われた。種もみ出荷量日本一の富山県では、「食の安全・安心」や「環境保全」への社会的関心が高まる中、化学農薬主体の水稲種子消毒からの脱却を目指している。薬剤依存度低下技術の積極的活用の一環として、富山湾海洋深層水を電気分解して得られる酸性水とアルカリ性水を温湯機であたためて処理する種子消毒法の開発と、それに関する試験データのエビデンスに基づく具体的消毒法が紹介された。

最後に、「土壌還元消毒—防除効果と経済性の評価」と題し、新村昭憲氏(北海道立中央農業試験場)による講演が行われた。土壌伝染性病害に対し、北海道でも効果が高く安価に行える土壌還元消毒法を開発し、多くの試験や現地事例に加え生産者の意見を集約し、エビデンスとなるデータを蓄積してきた。土壌消毒には、その特殊性から高い防除効果が求められ、失敗しないための事項や経済性についてエビデンスを明確に整理し、農家のためになる技術として紹介した。

各講演に対して活発な議論が交わされ、最後に今後の研究会の進め方について参加者からの意見を集約し、次回の宇都宮での開催に向けて研究会活動の継続を約束して閉幕した。(根岸寛光)

(2) 第8回植物ウイルス病研究会

第8回植物ウイルス病研究会は、平成18年6月6日(火)に北海道大学学術交流会館において開催され、150名を越える研究者・学生諸氏の参加があった。研究会は4つのセッションから構成されており、「北海道のウイルス病」のセッションでは、北海道農業研究センターの眞岡哲夫氏が「マクロアレイによる全ジャガイモウイルスの同時検出」、北海道立中央農業試験場の佐々木 純氏が「ユリのウイルス病」について講演を行い、座長は竹内 徹氏(北海道立中央農業試験場)が務めた。「植物耐病性強化に向けた研究」のセッションでは、岩手生物工学研究センターの鈴木一実氏が「カプシム属植物のウイルス抵抗性機構の解析」、岩手大学の高橋 翼氏が「異なる蛍光色素でタグをしたウイルス利用による混合感染と干渉作用の解析」、京都府農業資源研究センターの小坂能尚氏が「ZYMV

弱毒株製剤を利用したキュウリモザイク病の防除」、果樹研究所の兼松聡子氏が「果樹類紋羽病の病原力を低下させるマイコウイルス」について講演を行い、座長は宇垣正志氏(東京大学)が務めた。特別講演では、韓国のS. Lee氏(Dep. Genetic Engineering, Sungkyunkwan Univ.)により、「Development of multivirus resistant plants by using catalytic antibody」についてご講演いただき、座長は高浪洋一氏(九州大学)が務めた。Lee氏は、核酸分解酵素活性をもつ catalytic antibody を発現する形質転換植物を作出し、この形質転換植物は、2種類のジェミニウイルスと4種類のタバコウイルスに抵抗性であるという最新の興味ある成果を紹介された。「転写後型ジーンサイレンシング機構からウイルス病防除へのアプローチ」のセッションでは、北海道大学の後藤一法氏が「*Cucumovirus* のサプレッサー遺伝子と病徴発現」、東北大学の池上正人氏が「ベゴモウイルスのサプレッサーと病徴発現」、岡山大学の玉田哲男氏が「RNAサイレンシングによるテンサイそう根病の抵抗性」、中央農業研究センターの津田新哉氏が「*Tobamovirus* に起因するトマトとピーマンモザイク病の防除」について講演を行い、最初の2題の座長は三瀬和之氏(京都大学)が、後の2題の座長は佐野輝男氏(弘前大学)が務めた。研究会では活発な議論がなされ、盛会のうちに終了した。

(池上正人)

(3) 第9回植物病害生態研究会

第9回植物病害生態研究会は、平成18年6月6日(火)に北海道大学学術交流会館において、「病害生態研究の最前線」のテーマで開催された。参加者は75名で、内訳は大学8名、都道府県30名、独法21名、民間15名、その他1名であった。県および独法の試験研究機関からの参加が多かったが、大学関係者、特に学生の参加が少なく、従来から課題となっている。講演は、北海道立農試の堀田治邦氏が「ゴボウ黒条病の発生生態と防除」、新潟農総研の棚橋 恵氏が「セイヨウナシ黒斑病の発生生態と防除技術」、野菜茶業研の篠原 信氏が「病原性細菌との情報戦・情報伝達物質クオルモンをめぐる攻防」、千葉大学の戸野雅宏氏が「土壌病害の適応防除に向けて」、農環研の對馬誠也氏が「病害生態研究における仮説検証」と題してそれぞれ行った。前半は生産現場の最前線で奮闘している意欲溢れる若手による講演であった。現在までの研究成果が紹介されるとともに、今後の試験の進め方について留意すべき点が明示される等、活発な意見交換がなされた。続く2題は生態研究に应用可能な新しい研究手法や理論に関する講演であった。青枯病等の難防除病害に対する戦略として細

菌の菌体密度関知機構を利用した興味深いアプローチが紹介された。次に、土壌病害の生物的防除研究において Dose-response 曲線により量的関係を把握する方法が示されるとともに、生物防除の限界を理解し、圃場毎の防除効果を予測する手法としてベイズ理論が紹介され、その解釈と植物病理への応用の可能性について活発な議論がなされた。最後の講演は仮説・検証型研究についてであった。生態や防除に関する研究を科学的に詰め、論文として残すためには仮説・検証というプロセスを意識して研究を進めることが重要であり、この考え方を分かり易く解説していただいた。議論では、共通の認識を持つための教育、発表・議論の仕方、座長の重要性等についての多くの意見が出た。惜しむらくは、最後の講演までに残っていた若手研究者が少なかったことである。本研究会は植物病害の生態を研究する若手の研究者が相互交流することを目的に、20年程前に始まった会で、9年前から学会に正式に認知された研究会として活動している。企画・運営に参画していただける方を新たに募集しているため、希望される方は代表幹事の中島（九州沖縄農研）ntakashi@affrc.go.jp までお知らせ願いたい。（中島 隆）

(4) 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

平成18年6月6日、北海道大学学術交流会館にて、150名の参加のもと開催された。地元北海道を代表して、清水基滋氏（北海道立十勝農試）から「北海道における耐性菌の発生事例－テンサイ褐斑病菌の場合－」について講演があり、DMI 剤耐性菌の発生状況と薬剤の使用回数制限による防除が取り上げられた。食品衛生法上で問題となっているコムギ赤かび病について、ベンズイミダゾール剤耐性の2題の講演があり、吉松英明氏（大分県農林水産研究センター安全農業研究所）が「大分県におけるチオファネートメチル耐性 *Fusarium graminearum* の発生」を、岩間俊太氏（青森県農林総合研究センター）が「青森県におけるチオファネートメチル耐性 *Fusarium culmorum* の発生」を紹介した。それぞれの県における耐性菌発生状況の詳細およびマイコトキシン（DON, NIV）生産に及ぼす殺菌剤の影響についても紹介された。次いで、灰色かび病等に卓効を示す新規殺菌剤ボスカリドについて、BASF の Kristin Klappach 氏から「Resistance management and practical application for boscalid – a new broad-spectrum fungicide」と題して、本剤の耐性リスクに対する考え方および耐性を回避する方法の提案があった。

午後の部では、「イネいもち病菌の MBI-D 剤耐性菌は

less-fit（低環境適応）か？」の大タイトルのもと、木村教男氏（住友化学）から「MBI-D 剤耐性イネいもち病菌と感受性菌の諸性質の比較」、鈴木文彦氏（九州沖縄農業研究センター）から「耐性菌の遺伝的多様性と個体群動態」の講演があり、MBI-D 耐性菌は様々な遺伝的背景をもつ株が分布しているものの、MBI-D 剤の使用を停止すると耐性菌が減少することが報告された。また、イネいもち病が種子伝搬性病害であることから、耐性菌対策として種子更新が重要であり、「イネ採種圃における防除実態と今後の対応」として、武田敏幸氏（JA 全農）から「水陸稲種子の生産流通と防除の概略」が報告され、厳密な防除がなされているが県により対応が異なること、石川浩司氏（新潟県農業総合研究所）から「新潟県における防除実態」として具体的な事例が紹介された。

講演要旨集購入（1部2,000円）を希望される方は研究会事務局（東洋大学生命科学部、TEL: 0276-82-9216, FAX: 0276-82-9801, E-mail: fujimura@itakura.toyo.ac.jp）までご連絡下さい。なお次回のシンポジウムは、植物病理学会大会最終日の翌日、平成19年3月31日、宇都宮大学にて開催される予定である。（藤村 真）

【会員の動静】

1. 人事

(1) 大学関係

渡辺直道	H18. 3	明治大学 農学部 植物病害制御研究室 教授 退職
道家紀志	H18. 3	名古屋大学 大学院生命農学研究科 植物病理学研究分野 教授 退職
但見明俊	H18. 3	滋賀県立大学 環境科学部 退職
山本弘幸	H18. 3	香川大学 農学部 植物病理学研究室 教授 退職
白石雅也	H18. 3	愛媛大学 農学部 柑橘学研究室 教授 退職
古屋廣光	H18. 4	秋田県立大学 生物資源科学部 植物保護学講座 准教授
藤 晋一	H18. 4	秋田県立大学 生物資源科学部 植物保護学講座 助教授
成澤才彦	H18. 4	茨城大学 農学部 微生物生態学研究室 助教授

- 難波成任 H18. 4 東京大学大学院 農学生命科学研究科 植物医科学研究室 教授
- 濱本 宏 H18. 4 東京大学大学院 農学生命科学研究科 植物医科学研究室 助教授
- 鍵和田 聡 H18. 4 東京大学大学院 農学生命科学研究科 植物医科学研究室 助手
- 高橋修一郎 H18. 4 東京大学大学院 農学生命科学研究科 植物医科学研究室 助手
- Dionisio G. H18. 4 東京農業大学 国際農業開発 Alvinia -H20. 3 学学科 熱帯作物保護学研究室 日本学術振興会外国人特別研究員 (Bureau of Postharvest Research and Extension, Department of Agriculture, The Philippines)
- 鄭 熙英 H18. 3 韓国 慶北大学校 農業生命科学大学 応用生物化学部 植物菌病学研究室 講師
- 露無慎二 H18. 4 静岡大学 創造科学技術大学院 教授
- 平田久笑 H18. 3 静岡大学 農学部 植物病理学研究室 助手
- 佐藤幸生 H18. 4 富山県立大学 工学部 助教授
- 高野義孝 H17. 7 京都大学 農学研究科 応用生物科学専攻 植物病理学分野 講師
- 鈴木一実 H18. 4 滋賀県立大学 環境科学部 教授
- 土佐幸雄 H18. 4 神戸大学 農学部 植物病理学研究室 教授
- 池田健一 H18. 4 神戸大学大学院 自然科学研究科 細胞機能構造学研究室 助手
- 田中秀平 H18. 4 山口大学 農学部 生物資源環境科学科 教授
- 上野 誠 H17. 6 島根大学 生物資源科学部 植物病理学研究室 助手
- 秋光和也 H17. 11 香川大学 農学部 植物病理学研究室 教授
- 山口健一 H18. 4 南九州大学 園芸学部 環境保全学 教授
- 菅野善明 H18. 4 南九州大学 園芸学部 植物病理学 専任講師
- 岩井 久 H18. 4 鹿児島大学 農学部 植物病理学研究室 教授
- 諸見里善一 H18. 4 琉球大学 農学部 植物病理学研究室 教授
- (2) 農水省関連独立法関係
- 君島悦夫 H18. 4 横浜植物防疫所 業務部 統括植物検疫官 (輸出及び国内検疫担当) [植物防疫課 課長補佐 検疫調整班担当]
- 長谷部 亮 H18. 4 農林水産技術会議 首席研究開発企画官 [同所 研究開発企画官]
- 小川 奎 H18. 4 農業・食品産業技術総合研究機構 理事 [農業・生物系特定産業技術機構 理事]
- 佐藤 衛 H18. 4 農業・食品産業技術総合研究機構 総合企画調整部 企画調整室 主研 [同部 主研]
- 百田洋二 H18. 4 退職 [中央農研 企画調整部 業務第3科長]
- 宇杉富雄 H18. 4 退職 [中央農研 病害防除部 フェイトプラズマ病害研究室長]
- 斎藤初雄 H18. 4 退職 [中央農研 病害防除部 主研]
- 高橋賢司 H18. 4 中央農研 研究管理監 [同所 病害防除部長]
- 藤田佳克 H18. 4 中央農研 病害抵抗性研究チーム長 [秋田県農業試験場 長]
- 川上 頭 H18. 4 中央農研 主研 [同所 病害防除部 主研]
- 花田 薫 H18. 4 中央農研 企画管理部 業務推進室長 [生資研 企画調整部 研究管理科長]

宮坂 篤	H18. 4	中央農研 企画管理部 業務推進室 企画チーム長 [同所 企画調整部 連絡調整室 室長補佐]	大木健広	H18. 4	中央農研 昆虫等媒介病害研究チーム [同所 病害防除部]
森脇丈治	H18. 4	中央農研 北陸水田輪作研究チーム 主研 [同所 北陸水田利用部 主研]	畔上耕児	H18. 4	中央農研 病害虫検出同定法研究チーム長 [同所 病害防除部 細菌病害研究室長]
安田伸子	H18. 4	中央農研 病害抵抗性研究チーム 主研 [同所 病害防除部 主研]	一木珠樹	H18. 4	中央農研 病害虫検出同定法研究チーム 主研 [同所 病害防除部 主研]
平八重一之	H18. 4	中央農研 病害抵抗性研究チーム 上席研 [同所 北陸水田利用部 病害研究室長]	松浦貴之	H18. 4	中央農研 病害虫検出同定法研究チーム [同所 病害防除部]
高橋真美	H18. 4	中央農研 病害抵抗性研究チーム 主研 [同所 北陸水田利用部 主研]	今崎伊織	H18. 4	中央農研 病害虫検出同定法研究チーム [中央農研 病害防除部]
芦澤武人	H18. 4	中央農研 病害抵抗性研究チーム 主研 [同所 北陸水田利用部 主研]	越智 直	H18. 4	中央農研 病害虫検出同定法研究チーム [同所 病害防除部]
福本文良	H18. 4	中央農研 生物的病害制御研究チーム長 [同所 企画調整部 上席研]	吉田幸二	H18. 4	果樹研 研究管理監 [同所 生産環境部長]
仲川晃生	H18. 4	中央農研 生物的病害制御研究チーム 上席研 [同所 病害防除部 土壌病害研究室長]	今田 準	H18. 4	果樹研 カンキツ調整監 [同所 カンキツ研究官]
中保一浩	H18. 4	中央農研 生物的病害制御研究チーム 主研 [同所 病害防除部 主研]	島根孝典	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム長 [同所 生産研究部 病害研究室長]
井上康宏	H18. 4	中央農研 生物的病害制御研究チーム 主研 [同所 病害防除部]	中村 仁	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 主研 [同所 生産研究部 主研]
大村敏博	H18. 4	中央農研 昆虫等媒介病害研究チーム長 [同所 病害防除部 ウイルス病害研究室長]	秋田 滋	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 上席研 [同所 カンキツ研究部 病害研究室長]
津田新哉	H18. 4	中央農研 昆虫等媒介病害研究チーム 上席研 [同所 病害防除部 病害防除システム研究室長]	塩谷 浩	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 主研 [同所 カンキツ研究部 主研]
田中 穰	H18. 4	中央農研 昆虫等媒介病害研究チーム 主研 [同所 病害防除部 主研]	伊藤 伝	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 上席研 [同所 リンゴ研究部 病害研究室長]
			須崎浩一	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 主研 [同所 リンゴ研究部 主研]
			兼松聡子	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 主研 [同所 リンゴ研究部 主研]

中野正明	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 上席研 [同所 ブドウ・カキ 研究部 病害研究室長]	御子柴義郎	H18. 4	畜産草地研 企画管理部 業 務推進室長 [同所 企画調整 部 連絡調整室長]
中畝良二	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 主研 [同所 ブドウ・カキ研 究部 主研]	大久保博人	H18. 4	畜産草地研 飼料作環境研究 チーム 主研 [同所 飼料生 産管理部 主研]
井上理央	H18. 4	果樹研 果樹病害研究チーム [同所 ブドウ・カキ研究部]	菅原幸哉	H18. 4	畜産草地研 飼料作環境研究 チーム 主研 [同所 飼料生 産管理部 主研]
岩波 徹	H18. 4	果樹研 カンキツグリーンニ ング病研究チーム 上席研 [九 州沖繩農研 地域基盤研究部 病害遺伝子制御研究室長]	月星隆雄	H18. 4	畜産草地研 畜産温暖化研究 チーム 上席研 [花き研 生 産利用部 病害制御研究室 長]
宮田伸一	H18. 4	果樹研 カンキツグリーンニ ング病研究チーム 主研 [同所 生産研究部 主研]	早野由里子	H18. 4	北海道農研 主研 [同所 生 産環境部 主研]
伊藤隆男	H18. 4	果樹研 カンキツグリーンニ ング病研究チーム 主研 [同所 カンキツ研究部 主研]	小林有紀	H18. 4	北海道農研 バレイショ栽培 技術研究チーム 主研 [同所 畑作研究部 主研]
築尾嘉章	H18. 4	花き研 生育開花調節研究 チーム長 [同所 企画調整室 研究企画科長]	眞岡哲夫	H18. 4	北海道農研 バレイショ栽培 技術研究チーム 上席研 [同 所 生産環境部 ウイルス病 研究室長]
佐藤陽子	H18. 4	花き研 生育開花調節研究 チーム 主研 [同所 生産利 用部 主研]	奈良部孝	H18. 4	北海道農研 バレイショ栽培 技術研究チーム 上席研 [同 所 生産環境部 線虫研究室 長]
萩原 廣	H18. 4	野菜茶研 研究管理監 (つく ば担当) [同所 野菜研究官]	中山尊登	H18. 4	北海道農研 バレイショ栽培 技術研究チーム 主研 [同所 生産環境部 主研]
西 和文	H18. 4	野菜茶研 野菜 IPM 研究 チーム 上席研 [同所 果菜 研究部 病害研究室長]	佐山 充	H18. 4	北海道農研 北海道畑輪作研 究チーム 上席研 [長崎県総 農試 愛野馬鈴薯支場 環境 科長]
窪田昌春	H18. 4	野菜茶研 野菜 IPM 研究 チーム 主研 [同所 果菜研 究部 主研]	堀田光生	H18. 4	北海道農研 北海道畑輪作研 究チーム 主研 [同所 生産 環境部 主研]
白川 隆	H18. 4	野菜茶研 野菜 IPM 研究 チーム 上席研 [同所 葉根 菜研究部 病害研究室長]	植原健人	H18. 4	北海道農研 北海道畑輪作研 究チーム 主研 [同所 生産 環境部 主研]
山内智史	H18. 4	野菜茶研 野菜 IPM 研究 チーム [同所 葉根菜研究部]	竹中重仁	H18. 4	北海道農研 根圏域研究チー ム 上席研 [同所 畑作研究 部 環境制御研究チーム長]
篠原 信	H18. 4	野菜茶研 野菜 IPM 研究 チーム [同所 果菜研究部]			
園田亮一	H18. 4	野菜茶研 茶 IPM 研究チー ム長 [同所 茶業研究部 病 害研究室長]			

横山和成	H18. 4	北海道農研 根圏域研究チーム 上席研 [同所 畑作研究部 生産技術研究チーム長]	竹原利明	H18. 4	近中四農研 主研 [同所 地域基盤研究部 主研]
寺見文宏	H18. 4	北海道農研 低温耐性研究チーム 上席研 [同所 地域基盤研究部 越冬ストレス研究室長]	井上博喜	H18. 4	近中四農研 中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム [同所 地域基盤研究部]
喜多孝一	H18. 4	北海道農研 生産支援システム研究北海道サブチーム長 [同所 総合研究部 情報解析研究室長]	石川浩一	H18. 4	近中四農研 レタスビッグベイン研究チーム長 [同所 特産作物部 ウイルス病研究室長]
善林 薫	H18. 4	東北農研 主研 [同所 水田利用部 主研]	大崎秀樹	H18. 4	近中四農研 レタスビッグベイン研究チーム 主研 [同所 特産作物部 主研]
門田育生	H18. 4	東北農研 寒冷地野菜花き研究チーム 上席研 [同所 畑地利用部 畑病虫害研究室長]	野見山孝司	H18. 4	近中四農研 レタスビッグベイン研究チーム [同所 特産作物部]
篠原弘亮	H18. 4	東北農研 寒冷地野菜花き研究チーム 主研 [同所 畑地利用部 主研]	皆川 望	H18. 4	九州沖縄農研 研究管理監 [同所 地域基盤研究部長]
永坂 厚	H18. 4	東北農研 寒冷地野菜花き研究チーム [同所 畑地利用部]	上田重文	H18. 4	九州沖縄農研 暖地施設野菜花き研究チーム 主研 [同所 地域基盤研究部 主研]
小泉信三	H18. 4	東北農研 東北水田輪作研究チーム長 [中央農研 病害防除部 糸状菌病害研究室長]	奥田 充	H18. 4	九州沖縄農研 暖地施設野菜花き研究チーム 主研 [同所 地域基盤研究部 主研]
足立嘉彦	H18. 4	東北農研 省農薬リンゴ研究チーム 主研 [果樹研 生産環境部 主研]	久保田健嗣	H18. 4	九州沖縄農研 暖地施設野菜花き研究チーム [同所 地域基盤研究部]
兼松誠司	H18. 4	東北農研 寒冷地温暖化研究チーム 上席研 [同所 地域基盤研究部 病害管理研究室長]	西村範夫	H18. 4	九州沖縄農研 暖地施設野菜花き研究チーム 上席研 [同所 野菜花き研究部 野菜花き保護研究チーム長]
酒井淳一	H18. 4	東北農研 大豆生理研究東北サブチーム 主研 [同所 地域基盤研究部 主研]	大貫正俊	H18. 4	九州沖縄農研 暖地施設野菜花き研究チーム 上席研 [同所 沖縄支所 総合防除研究室長]
堀内誠三	H18. 4	東北農研 研究支援センター業務第1科長 [同所 企画調整部 業務第1科長]	中島 隆	H18. 4	九州沖縄農研 赤かび病研究チーム長 [同所 地域基盤研究部 上席研]
土屋健一	H18. 4	近中四農研 研究管理監 [同所 特産作物部長]	鈴木文彦	H18. 4	九州沖縄農研 赤かび病研究チーム 主研 [同所 地域基盤研究部 主研]
宮川久義	H18. 4	近中四農研 上席研 [同所 地域基盤研究部 病害研究室長]	吉田めぐみ	H18. 4	九州沖縄農研 赤かび病研究チーム [同所 地域基盤研究部]

荒井治喜	H18. 4	九州沖縄農研 九州水田輪作研究チーム 上席研 [同所 地域基盤研究部 病害生態制御研究室長]	塩見敏樹	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 上席研 [同所 微生物・小動物研究グループ長]
高山智光	H18. 4	九州沖縄農研 イチゴ周年生産研究チーム 主研 [同所 野菜花き研究部 主研]	松本直幸	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 上席研 [同所 微生物・小動物研究グループ 研究リーダー]
澤田宏之	H18. 4	生資研 基盤研究領域ジーンバンク主研 [農環研 企画戦略室主研]	石井英夫	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 上席研 [同所 有機化学物質研究グループ 研究リーダー]
佐藤豊三	H18. 4	生資研 基盤研究領域ジーンバンク 上級研 [同所 ジーンバンク微生物資源研究チーム長]	對馬誠也	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 上席研 [同所 農業環境インベントリーセンター 微生物分類研究室長]
青木孝之	H18. 4	生資研 基盤研究領域ジーンバンク 主研 [同所 遺伝資源研究グループ 主研]	荒城雅昭	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 上席研 [同所 微生物・小動物研究グループ 研究リーダー]
林 長生	H18. 4	生資研 植物科学研究領域 耐病性研究ユニット 上級研 [同所 遺伝資源研究グループ 多様性評価研究チーム長]	小坂橋基夫	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 主研 [同所 農業環境インベントリーセンター 主研]
川崎信二	H18. 4	生資研 植物科学研究領域 耐病性研究ユニット 上級研 [同所 生理機能研究グループ 上席研]	岡部郁子	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 主研 [同所 微生物・小動物研究グループ 主研]
加来久敏	H18. 4	生資研 植物科学研究領域 植物・微生物間相互作用研究ユニット 上級研 [同所 遺伝資源研究グループ 上席研]	吉田隆延	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 主研 [同所 微生物・小動物研究グループ 主研]
西澤洋子	H18. 4	生資研 植物科学研究領域 植物・微生物間相互作用研究ユニット 主研 [同所 新生生物資源創出研究グループ 主研]	吉田重信	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 主研 [同所 農業環境インベントリーセンター 主研]
村上理都子	H18. 4	生資研 昆虫科学研究領域 昆虫・微生物間相互作用研究ユニット 主研 [同所 昆虫適応遺伝研究グループ 主研]	野口雅子	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 [同所 微生物・小動物研究グループ]
			星野裕子	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 [同所 微生物・小動物研究グループ]
			田村季実子	H18. 4	農環研 生物生態機能研究領域 [同所 農業環境インベントリーセンター]
			仙北俊弘	H18. 4	国際農研 熱帯・島嶼研究拠点所長 [同所 沖縄支所長]

加納 健	H18. 4	国際農研 企画調整部 企画 評価室長 [同所 国際研究調 整官]	田中 孝	H18. 4	山形県農業総合研究センター 環境技術開発科 研究員 (再 任用)
野田孝人	H18. 4	国際農研 企画調整部 研究 支援室 連絡調整科長 [同所 企画調整部 連絡調整科長]	菅原 敬	H18. 4	山形県庄内総合支庁 農業技 術普及課 産地研究室 主任 専門研究員
大藤康雄	H18. 4	国際農研 熱帯・島嶼研究拠 点 生産環境分野 プロジェ クトリーダー [東北農研 地 域基盤研究部 病害管理研究 室 主研]	後藤新一	H18. 4	山形県最上総合支庁 農業振 興課 技師
加藤雅康	H18. 4	国際農研 生物資源領域 主 研[同所 生物資源部 主研]	半沢伸治	H18. 4	福島県農業総合センター 企 画経営部 企画情報グループ 主任研究員
安藤康雄	H18. 4	国際農研 畜産草地領域 主 研 [同所 生畜産草地部 主 研]	平子喜一	H18. 4	福島県農業総合センター 生 産環境部 作物保護グループ 作物保護グループ科長
河邊邦正	H18. 4	国際農研 熱帯・島嶼研究拠 点 主研 [同所 沖縄支所 主研]	山田真孝	H18. 4	福島県農業総合センター 生 産環境部 作物保護グループ 主任研究員
(3) 都道府県試験研究機関関係			皆川博孝	H18. 4	福島県農業総合センター 生 産環境部 作物保護グループ 主任研究員
中南 博	H18. 4	岩手県農林水産部 農産園芸 課 主任主査	堀越紀夫	H18. 4	福島県農業総合センター 生 産環境部 作物保護グループ 副主任研究員
深谷雅子	H18. 4	秋田県農林水産技術センター 果樹試験場 管理室長 (兼) リンゴ部長	土井則夫	H18. 4	福島県農業総合センター 作 物園芸部 畑作グループ 専 門研究員
浅利正義	H18. 4	秋田県農林水産技術センター 果樹試験場 鹿角分場 上席 研究員 (兼) 分場長	根本和俊	H18. 4	福島県農業総合センター 作 物園芸部 畑作グループ 主 任研究員
佐藤 裕	H18. 4	秋田県農林水産技術センター 果樹試験場 天王分場 主任 研究員 (兼) 分場長	芳賀紀之	H18. 4	福島県農業総合センター 作 物園芸部 野菜グループ 研 究員
竹田富一	H18. 4	山形県農業総合研究センター 環境技術開発科 研究主幹 (兼) 科長	尾形 正	H18. 4	福島県農業総合センター 果 樹研究所 栽培グループ 栽 培グループ科
加藤智弘	H18. 4	山形県農林水産部 エコ農業 推進課 課長補佐	菅野英二	H18. 4	福島県農業総合センター 果 樹研究所 病害虫グループ 主任研究員
早坂 剛	H18. 4	山形県農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支 場 研究開発専門員	千葉恒夫	H18. 4	茨城県農業総合センター 稲 敷地域農業改良普及センター 次長
菊地繁美	H18. 4	山形県農林水産部 生産技術 課 技術調整主査	渡邊 健	H18. 4	茨城県農業総合センター 農 業研究所 病虫研究室 室長

青木一美	H18. 4	茨城県農業総合センター 農業研究所 病虫研究室 技師	向井(森井) 環	H18. 4	富山県砺波農業普及指導センター 主任普及指導員
石川成寿	H18. 4	栃木県農業試験場 生物工学部 部長	岡本 博	H18. 4	福井県奥越農林総合事務所 農業経営支援部 部長
生井 潔	H18. 4	栃木県農業試験場 生物工学部 応用生物研究室 室長	福田明美	H18. 4	福井県福井農林総合事務所 技術経営支援課 企画主任
柴田 聡	H18. 4	群馬県農業技術センター 生産環境部 植物保護グループ 副主任研究員	渡辺貴弘	H18. 4	福井県農業試験場 生産環境部 病理昆虫研究グループ
漆原寿彦	H18. 4	群馬県農業技術センター 生産環境部 植物保護グループ 独立研究員	村元靖典	H18. 4	岐阜県農業技術センター 主任研究員
三木静恵	H18. 4	群馬県農業技術センター 生産環境部 植物保護グループ 主任	富川 章	H18. 4	三重県科学技術振興センター 農業研究部 研究企画監(兼) 総括研究員 循環機能開発研究課 課長
桑原克也	H18. 4	群馬県農業技術センター 生産環境部 植物保護グループ 技師	黒田克利	H18. 4	三重県科学技術振興センター 農業研究部 循環機能開発研究課 主幹研究員
橋本光司	H18. 3	退職(埼玉県農林総合研究センター)(埼玉県農林公社 種苗センターへ)	鈴木啓史	H18. 4	三重県科学技術振興センター 農業研究部 循環機能開発研究課 研究員
梅本清作	H18. 4	千葉県病害虫防除所 次長	加藤順久	H18. 4	愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ 専門員
鈴木 健	H18. 4	千葉県農業総合研究センター 生物工学部 微生物工学研究室 上席研究員	木下忠孝	H18. 4	愛知県農業総合試験場 東三河農業研究所 所長
金子洋平	H18. 4	千葉県農業総合研究センター 生産環境部 病理研究室 研究員	三宅律幸	H18. 4	愛知県農業総合試験場 企画普及部 広域指導グループ 主任専門員
大谷 徹	H18. 4	千葉県農業総合研究センター 暖地園芸研究所 環境研究室 上席研究員	片岡光信	H18. 6	京都府病害虫防除所 所長
市川和規	H18. 4	山梨県総合農業技術センター 環境部 部長	小坂能尚	H18. 6	京都府農業資源研究センター 応用研究部 部長
芳賀 一	H18. 4	静岡県農業試験場 わさび分場 副主任	入江和己	H18. 4	兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター 生物工学部 部長
伏見典晃	H18. 4	静岡県農業水産部 担い手室 主査	前川和正	H18. 4	兵庫県立農林水産技術総合センター 北部農業技術センター 農業部 主任研究員
影山智津子	H18. 4	静岡県柑橘試験場 主任研究員	松浦克成	H18. 4	兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター 病害虫防除部 研究員
米山千温	H18. 4	静岡県西部農林事務所 技師	佐古 勇	H18. 4	鳥取県大山農業改良普及所 普及主幹
瀬 智之	H18. 4	富山県食品研究所 副主幹研究員			

- | | | | |
|-------|--------|---|--|
| 船原みどり | H18. 4 | 鳥取県倉吉農業改良普及所
改良普及員 | 2. 学位取得者 (課程博士・論文博士) |
| 栗久宏昭 | H18. 4 | 広島県立農業技術センター
環境制御研究部 副主任研究
員 | 後藤一法 H18. 3 北海道大学農学研究科 博士
(農学) キュウリモザイクウ
イルスのサイレンシングサブ
レッサーの解析 |
| 衣川 勝 | H17. 4 | 香川県農業試験場 小豆分場
分場長 | 後藤清孝 H18. 3 北海道大学農学研究科 博士
(農学) ジャガイモ疫病菌の
集団構造とその多様化要因に
関する研究 |
| 楠 幹生 | H18. 4 | 香川県農業試験場 主任研究
員 | 今 辰哉 H18. 3 東北大学大学院農学研究科
博士 (農学) トマト巻葉病の
病原ベゴモウイルスの多様性
とサテライト DNA の病原性
に関する研究 |
| 古谷眞二 | H18. 3 | 退職 (高知県農業技術セン
ター茶業試験場長) (バイエ
ルクロップサイエンスへ) | Asad Ali H17. 9 宇都宮大学 (東京農工大学
連合大学院) 博士 (農学)
Identification and molecular
characterization of cucurbit
viruses in Pakistan |
| 高橋尚之 | H18. 4 | 高知県農業技術センター 環
境システム開発室長 | 小板橋基夫 H17. 9 宇都宮大学 (東京農工大学連
合大学院) 博士 (農学) 揮
発性静菌物質生産糸状菌によ
る地上部病害の生物防除に関
する研究 |
| 竹内繁治 | H18. 4 | 高知県農業技術センター 生
産環境部チーフ (病理担当) | Jintana H17. 3 筑波大学生命環境科学研究科
博士 (農学) Morphological
and molecular phylogenetic
relationships of Puccinia
species parasitic on Artemisia
in Japan |
| 下元祥史 | H18. 4 | 高知県農業技術センター 生
産環境部 主任研究員 | Engkhaninun H17. 3 筑波大学生命環境科学研究科
博士 (農学) 富士山亜高山帯
針葉樹林における外生菌根菌
の群集生態学的研究 |
| 中村宏子 | H18. 4 | 佐賀県佐城農業改良普及セン
ター 園芸係 (野菜担当)
普及員 | 柴田 尚 H18. 1 東京大学 博士 (生命科学)
Plantago asiatica mosaic virus
の病原性決定因子に関する研
究 |
| 寺井清宗 | H18. 4 | 長崎県 県北農業改良普及セ
ンター 主任技師 | 高橋修一郎 H18. 3 東京農業大学 博士 (国際農
業開発) アジアのバナナに発
生するウイルスの同定と分子
生物学的性状の解明 |
| 中村吉秀 | H18. 4 | 長崎県農林部農産園芸課 係
長 | |
| 小牧孝一 | H18. 4 | 熊本県農業研究センター 生
産環境研究所 病害虫研究室
室長 | |
| 挾間 渉 | H18. 4 | 大分県農林水産研究センター
水田農業研究所 所長 | |
| 有馬 忍 | H18. 4 | 大分県農林水産研究センター
きのこ研究所 きのこ担当
主幹研究員 | |
| 森田鈴美 | H18. 4 | 大分県中部振興局 地域振興
部 地域振興班 副主幹 | |
| 岡本 潤 | H18. 4 | 大分県東部振興局 生産流通
部 果樹・花き班 主任普及
員 | |
| 大久保裕行 | H18. 4 | 大分県西部振興局 生産流通
部 果樹・花き班 技師 | |
| 中西善裕 | H18. 4 | 鹿児島県伊佐農業改良普及セ
ンター 農業改良技師 | |

- 真鍋佳世 H18. 3 東京農業大学 博士（農学）ジャガイモそうか病を引き起こす *Streptomyces* 属菌の類別並びに制御に関する研究
- 兼橋和央 H18. 3 東京農業大学 博士（農学）野菜類及び花卉類に発生した新しい細菌病とその発生生態に関する研究
- Wong Boonsuebsakul H18. 3 東京農業大学 博士（農学）Studies on *Ralstonia solanacearum*, causal agent of bacterial wilt of various plants in Thailand
- 楠元智子 H17. 9 静岡大学（岐阜大学連合大学院）博士（農学）植物病原細菌の分類・同定
- MD. Mijan Hossain H17. 9 静岡大学（岐阜大学連合大学院）博士（農学）Molecular mechanisms involved in the interaction between plant and soft-rot *Erwinia* spp.
- 藤川貴史 H18. 3 静岡大学（岐阜大学連合大学院）博士（農学）*Xanthomonas* 属細菌の *avr/pth* 遺伝子ファミリーの機能解析
- Alit Susanta Wirya H18. 3 静岡大学（岐阜大学連合大学院）博士（農学）Studies on *gacS-gacA* regulatory genes and related phenotypes of *Pseudomonas fluorescens* biocontrol strain PfG32R
- 宮川久義 H17. 9 京都大学 博士（農学）イネもみ枯細菌病およびイネ苗立枯細菌病の発生生態と防除に関する研究
- 角谷直樹 H17. 9 神戸大学大学院 自然科学研究科 博士（農学）イネ科植物いもち病菌における RNA サイレンシング機構の解析
- 坂本 勝 H17. 9 神戸大学大学院 自然科学研究科 博士（農学）Analysis of signal transduction pathways of apoptotic cell death induced by the host-specific toxin, victorin
- 清水直人 H18. 3 神戸大学大学院 自然科学研究科 博士（農学）AK 毒素 I により誘導された宿主ニホンナシにおける細胞膜変性に伴う活性酸素種生成の生化学的・細胞学的解析
- 田村尚之 H17. 9 岡山大学自然科学研究科 博士（農学）植物病原細菌 *Ralstonia solanacearum* の *hrpB* 依存性遺伝子の網羅的単離と機能解析
- 高橋宏隆 H18. 3 岡山大学自然科学研究科 博士（農学）植物細胞の最外層に存在するアピレースの構造と役割
- 藤田景子 H18. 3 岡山大学自然科学研究科 博士（農学）うどんこ病菌分生子と植物細胞との接触面に出現する液状物質に関する研究
- 松井英譲 H18. 3 岡山大学自然科学研究科 博士（農学）植物-病原菌相互作用における 12-oxophytodienoic acid reductase (OPR) の機能解析
- 松本雅好 H18. 3 岡山大学自然科学研究科 博士（農学）植物の成長制御におけるグルタチオンの糖代謝調節の意義に関する研究
- 岡久美子 H18. 3 鳥取大学・連合農学研究科 博士（農学）宿主特異的毒素生産菌の感染に関する植物成分とその病理学的役割
- Khanam Nurun Nahar H17. 9 鳥取大学・連合農学研究科（島根大学）博士（農学）Studies on red light-induced resistance in broad bean (*Vicia faba* L.) against *Botrytis cinerea*

- 前田由紀子 H18. 3 愛媛大学・連合農学研究科
博士（農学）イネもみ枯細菌
病菌の oxolinic acid 耐性機構
の網羅的解析
- 鳥越博明 H17. 12 九州大学 博士（農学）サト
イモを加害するミナミネグサ
レセンチュウの発生生態と防
除に関する研究
- 羅 朝喜 H17. 3 鹿児島大学・連合農学研究
科（佐賀大学）博士（農
学）Genetic analysis and
chromosomal assignment of
cultivar-specific avirulence
genes in rice blast fungus

3. 海外長期出張者

(1) 大学関係

- 稲垣善茂 H17. 3 岡山大学自然科学研究科 助
～18. 9 教授 英国ジョンイネスセン
ター（延長）

【学会ニュース編集委員コーナー】

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せ頂きたいと思っております。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

松山宣明, 夏秋知英, 石井英夫, 竹内妙子, 小板橋基夫,
各委員宛

編集後記

学会ニュース第35号をお届けいたします。平成18年度日本植物病理学会は、6月3～5日の3日間、快適な環境のもと960名にもものぼる多数の参加者をえて盛大に開催され、成功裡に閉幕いたしましたこと、ご同慶の至りです。大会関係者のご尽力に心から感謝申し上げます。

さて、本号では学会大会開催状況報告、大会前後に開催された第1回EBC研究会、第8回植物ウイルス研究会、第9回植物病害生態研究会、第16回殺菌剤耐性菌研究会の開催報告を掲載致しました。また、会員の動静、学位取得者紹介を掲載致しましたが、年度始めということもあり、記載洩れもあるかと存じますので、お気付きの点については事務局へご連絡ください。逐次ご紹介いたします。なお、他学会での受賞や海外への渡航（期間、事前・事後に関わり無く）についてもご遠慮なくご連絡ください。（松山宣明）
